

企業版ふるさと納税を活用した

小田原市の挑戦

企業と地方公共団体との地域別マッチング会 in 神奈川

2024年2月21日（水）神奈川県小田原市企画政策課

小田原市について

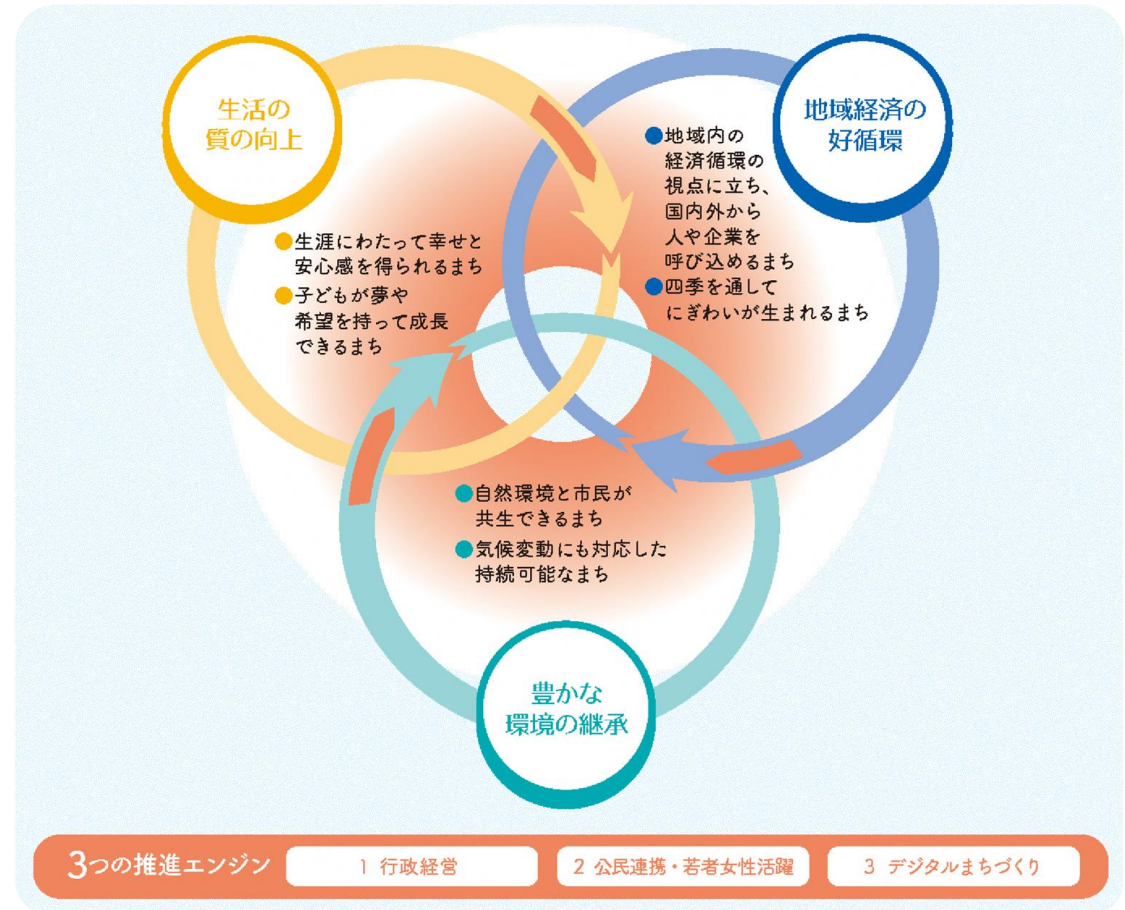
- 人口：186,326人（R6.1.1現在）
- 神奈川県西部の中心都市
- 森里川海オールインワンの自然環境や多彩な文化や生業等の豊富な地域資源
- 小田原駅には鉄道会社5社6路線が乗り入れており、市内には18の鉄道駅がある（東京駅からは新幹線で約35分）
- 2019年7月 内閣府「SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業」に選定
- 2022年7月 総務省「地域課題解決のためのスマートシティ推進事業」に採択
- 2022年11月 環境省「脱炭素先行地域」に選定



脱炭素先行地域
神奈川県小田原市

まちづくりのビジョン

- 第6次小田原市総合計画「2030ロードマップ1.0」に基づき、様々な施策を展開
- 将来像を「**世界が憧れるまち“小田原”**」とし、「**生活の質の向上**」「**地域経済の好循環**」「**豊かな環境の継承**」の3つをまちづくりの目標としている
- あわせて「**行政経営**」「**公民連携・若者女性活躍**」「**デジタルまちづくり**」の3つをまちづくりの推進エンジンに位置付け、各取組を加速化させていく



2030ロードマップ1.0



寄附対象事業について

- 将来都市像「世界が憧れるまち“小田原”」実現のためには、既存のリソースだけでなく、様々な協力・バージョンアップが必要
- 関係人口や、小田原にゆかりがある民間企業など、多様な主体とともに取組を強化
- 「小田原と言ったら小田原城」のイメージを払拭するとともに、若年層に関心を持たれるコンテンツを充実
- 「『世界が憧れるまち“小田原”』に向けた関係人口獲得プロジェクト」とし、これまで以上に小田原と伴走するパートナーを増加
- 事業推進において「公民連携」や「若者活躍」「デジタルまちづくり」の視点を取り入れる



取組A ～美食のまち小田原～ 多彩な街 多幸な食

【事業担当】 経済部観光課
0465-33-1521

概要

本市には、生産者や料理人などの多様な人材や、農産物・水産物などの豊かな食材と伝統的な加工品、体験イベントなど、小田原ならではの「食」にまつわる数多くの地域資源が存在。

「美食のまちづくり」では、これらの地域資源を最大限活用する取組を、市民と一体となって展開し、小田原の食のイメージを市内外に広め、地域経済の好循環の実現につなげていく。



事業内容

美食のまち小田原 推進協議会の取組

「食」を活用した事業を展開し、事業者の誘致や連携促進、観光客増加、観光消費額の増額等を図り、地域経済を活性化させるため、市内経済関連団体等と協議を行っている。

今後は、食育や学校給食への展開をはじめ、生産者と事業者のマッチングやインキュベーションにも取り組む。



美食のまち 市民サポーター

小田原の食や食文化の豊かさを実感して、愛着と誇りを持ってもらう「美食のまち市民サポーター」を募集中（市外在住の方も可能）。

サポーターには、イベントへの参加や情報発信、本市の食材等を活用したレシピや商品の考案などにご協力いただく。



小田原 ガストロノミーフェスタ2023

2023年11月4日、5日の2日間で、「小田原ガストロノミーフェスタ2023」を開催。

市民・観光客向けの食の啓発イベントとして、海産物や農産物の新鮮な食材や、それらを生み出す気候や風土等の食環境を生かした加工品を作り手の方々から提供。



取組B 観光PR事業 ～観光施策のデジタル化～

【事業担当】 経済部観光課
0465-33-1521

概要

観光PRのために、AIビーコンを活用した人流動向調査、eスポーツを活用した観光施策を実施するなど、新たな層への誘客を図り、地域経済の活性化を目指す。



小田原eスポーツ

eスポーツは、世界各国で盛り上がりを見せているほか、国内で流行の兆しを見せている。また、年齢・性別・障がいの有無に関係なく多くの人を楽しめるコンテンツであるため、eスポーツに着目し、eスポーツを新たな観光コンテンツとして様々な事業を展開している。

デジタル技術を活用した 来訪者の人流動向調査

来訪者の回遊性向上や滞在時間増加など、観光施策への活用を図るため、来訪者の属性や回遊パターンなどのデータが収集できる「AIビーコン」を2022年10月1日より市内の主要観光施設に設置。

AIビーコンから得られた来訪者数、性別、年代、居住地、回遊パターン、滞在時間等の収集データを分析することで、より効果が見込める施策の検討が可能となっている。

より多くの方が、取得したデータを参照できるよう、データの分析結果を広く公開することで、市内事業者のマーケティングなどにも活用いただける。

eスポーツ大会の開催

気軽に参加できる体験会型のイベントから本格的なeスポーツの競技大会、市内企業に対するeスポーツの理解促進や魅力発信を目的とした市内企業対抗戦など、本市のeスポーツを盛り上げるべく様々な形で開催。

e-zoneの運営

もっと多くの人にeスポーツを体験してもらい、小田原のeスポーツを盛り上げていくために、おだわらいノベーションラボ内でeスポーツの練習・体験が無料でできる『e-zone』を運営。

福祉分野での活用

人気ゲーム「太鼓の達人」を使用し、太鼓と鉢の専用コントローラーで目と手を動かしながら楽しくeスポーツ体験を実施。

事業内容



取組C 若者が創る、集う、にぎわいまちづくり推進事業

【事業担当】 経済部商業振興課
0465-33-1511

概要

「街に魅力や活気が無い」、「余暇を楽しむ場、働く場が少ない」といった若者による評価を覆し、若者が小田原に愛着を持ってもらうことを目的に、インフルエンサーの発信力を活用した事業やイベント、市内外の企業、起業家との連携事業などのシティプロモーションに取り組む。

若者世代の流出抑制・流入促進のため、地域内の若者が自ら地域の魅力を探求することや、本市を訪れた人が地域とつながる仕組みを充実させることが最初の一步。以下の3つの事業を柱に事業を実施。



事業内容

若者が“誇れる” 地域資源再発見事業

インフルエンサーと若者が協働で、デジタルマップや動画制作を通じて地域資源の価値を再認識。情報発信を実施。

他者の目を通した「人気の逆輸入効果」や「良質な体験の循環」により、市への愛着向上と、小田原に住むことを“誇れる”まちを目指す。



若者が“惹かれる” 訪れたいまちづくり事業

地域資源再発見事業で結集した、地域資源の魅力を発信するイベントをインフルエンサーらとともに開催。

デジタルマップ、動画事業と連動して継続的なシティプロモーションに繋げる。

城下町ならではの体験型のコンテンツ（和服、甲冑、忍者）を地理的特性と組み合わせ、ここでしか体験できないコンテンツへと昇華。若者が“惹かれる”訪れたいまちを目指す。



若者が“つながる” 連携環境整備事業

本市に住み、学び、働く若者と、市内外の企業・起業家との相互の“つながり”を創出。

“つながり”創出により、本市における若者の立ち位置や役割、重要性を再認識。若者が行動するきっかけづくりとする。

ヒト・モノ・コトの活発な交流が生まれることで、“選ばれるまち”としての能力を磨く。中長期的な地域経済の好循環や地域活性化の実現を目指す。



その他の寄附募集事業（一例）

医療

小田原市立病院新病院建設



- 小田原市立病院は高度急性期・急性期医療を中心に神奈川県西地域の基幹病院として、地域医療を守る役割を担っている。
- 2026年春の開院を目指し、新病院を建設中。2024年1月から本体建設工事が開始。

子ども

子育て支援拠点管理運営事業



- 市内4か所に子育て支援センターを運営し、子育てひろばの提供、相談指導、情報の収集及び提供、子育て講座の開催等を行う。
- 子育てサークルへの支援等を行うことで、子育て家庭の育児に対する不安感、負担感の軽減を図る。

歴史

史跡小田原城跡の保存・活用・整備



- 史跡小田原城跡の保存・活用・整備を行うため、御用米曲輪を中心とした修景整備を行うとともに、戦国期の整備方法の検討を進める。
- 木造化等を含めた将来の小田原城天守や大手門のあり方に関する調査研究を進めていく。

環境

森里川海の恵みを次世代につなぐ自然環境保全事業



- 多種多様な動植物など自然環境を次世代に引き継ぐため、自然環境等モニタリング調査の実施や、市内小中学校向けに環境学習やイベントを実施。
- 自治会やボランティア団体等の活動を支援し美化推進の啓発を行う。

経済

企業誘致や新しい働き方の推進



- 市内のコワーキングスペースやシェアオフィス、ワーケーション施設等の利用に係る費用の補助を行う。
- ワーク・プレイス・マーケットを運営し、ビジネスマッチングやオープンイノベーションを創出する。

- 今回紹介した事業以外にも、さまざまな分野における事業で寄附を募集しています。
- 詳細は【企画部企画政策課：0465-33-1255】までお問い合わせください。